

安定処理工法 (現位置工法)



現地発生材を使用して路床を構築するとともに、資源の有効活用が可能です。

概要

現地発生材にセメント、石灰等の安定処理材を使用し、現場で混合して、路床を構築する工法です。

特長

- ▶ 安定処理することで、強度が増加し、耐久性が向上します。
- ▶ 安定処理材の種類や添加量を選定することで、支持力を向上させることができます。
- ▶ スタビライザを使用する場合、最大深さ 60cm 未満の改良が可能です。



施工事例

土の分類と安定処理材の目安

土質材料の分類		安定処理の効果					備考
		◎有効 ○期待できる △使用される場合もある					
		安定処理材					
		セメント	消石灰	生石灰	セメント系固結材	石灰系固結材	
粗粒土	レキ質土	◎	◎	—	—	—	注1) 安定処理材は土質に適したものを選定する。
	砂質土	◎	◎	○	◎	◎	
	シルト	—	◎	○	◎	◎	
細粒土	粘質土	—	△	◎	◎	◎	注2) 高含水比粘質土には生石灰が有効である。
	有機質土	—	—	—	◎	◎	
	火山灰質土	—	—	◎	◎	◎	
	高有機質土	—	—	—	○	○	
	泥土	—	—	—	○	○	

適用場所

- ▶ 改良を必要とする路床
- ▶ 軟弱な路床や路盤
- ▶ 良質な材料が入手困難なところ
- ▶ 残土処分場の確保が困難なところ
- ▶ 構造物等の基礎地盤